

概観

【政治・社会】

・ 欧州委員会が、ブルガリア政府の EU 資金（加盟前支援）運営管理体制の改善努力は、具体的な成果がないとし、支払機関の再認定を行わなかったことに対し、ブルガリア政府は（資金凍結の際とは異なり）不当な決定であると反発した。

・ パルヴァノフ大統領は、ブルガリア認知度向上と経済交流促進のため、多様な地域に外遊を展開。

【経済】

・ 研究機関、産業部門は、金融危機の実体経済への影響（失業率の上昇、経常収支赤字の拡大、金融・不動産部門へのダメージ等）を予測、政府に対し楽観視することなく対応するよう求めた。

・ ブルガリア初、バルカン最大の太陽光発電プラント建設へ。

【わが国との関係】

・ 2つの学校の衛生施設改修のための草の根無償資金プロジェクト署名式が行われた。

この月報はブルガリア各種メディアの報道ぶり等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治・社会

1. 内政

◆ 明年の総選挙実施時期

▶ 明年6月には欧州議会議員選挙、同7月にはブルガリア総選挙が予定されているが、この2つの両選挙を同時に実施すべしとの議論が政府・議会内で行われ、意見が分かれている。両選挙の同時実施の支持派は、同時実施により経費削減（約2千万レバ）が可能で、またより多くの市民が投票に出向くことが期待されている（7月は夏休みのため投票率の低下が懸念される）と主張している。

2. 外政

◆ 欧州委：EU 資金執行機関の再認定行わず

▶ 欧州委員会によるEU資金（加盟前支援プロジェクト）運用の問題点の指摘と、資金凍結及び支払機関の認定取り消し処分に対し、ブルガリア政

府はEU資金担当大臣を中心に事態の改善を図ってきたが、25日、欧州委は、支払機関への再認定を行わないことを決定した。右決定に伴い、未だプロジェクト契約されていない補助金枠2億2千万ユーロについては消化出来る見込みがなくなった。欧州委は、「ブ」のEU資金の管理運営の改善努力については一定の評価はするも、殆どが将来に向けてのプレッジ段階であり、具体的な成果をもたらしていないと指摘した。

▶ 同決定に対し、ブルグチエバEU基金担当大臣は、EUのパートナーシップ原則及び結束から逸脱する不公平な措置である、と深い落胆の意を表明、パルヴァノフ大統領及びスタニシェフ首相もそれぞれ遺憾の意を表明した。

◆ パルヴァノフ大統領の外遊

（1）ウズベキスタン訪問（6日～9日）

▶ カリモフ大統領らと二国間ビジネス関係等につき協議。知的財産の保護及び情報技術・コミュニ

ケーション分野に関する両国商工会議所間の三つの二国間協定に署名。プロブディフ市と、サマルカンド市の姉妹都市協定に署名（～9日）。

（2）アルゼンチン、メキシコ訪問

▶10～12日、パルヴァノフ大統領夫妻はアルゼンチンを公式訪問、フェルナンデス大統領等と二国間経済関係の促進について話し合った他、メルコスール（南米共同市場）・EU戦略的パートナーシップ合意に向けた進捗状況等について意見交換を行い、経済協力協定に署名した。同国には1万人以上のブルガリア人が在住。また、同行したディミトロフ経済大臣から、ブルガリア国内にアルゼンチン用の工業団地を建設することについての大臣協議開催（来年2月於：ブルガリア）を提

経済

1. マクロ経済

◆金融危機の影響

▶ブルガリア科学アカデミーは、金融危機の影響により今後失業率は10%程度まで上昇し、賃金の伸びも抑えられると予測し、政府に対し楽観視することなく対応するよう求めた。またブルガリア工業連盟も来年の経常収支赤字は現在の24%から28%まで拡大すると予測するとともに、約67%の外国投資が集中する金融・不動産部門は金融危機により大きなダメージを被り、経済成長率も鈍化するであろうと述べている。

◆2009年の経済成長率予測

▶オレシャルスキ財務大臣は、2009年の経済成長率を4.7%と発表していたが、その数字は楽観的なものであり、修正が必要との見解を示した。現在政府内で検討を進めているが、来年の経済成長率を2%に下方修正する模様。

◆市中銀行の預金準備率を2ポイント下げ10%へ

▶ブルガリア中央銀行は市中銀行に対する預金準備率を12月1日より現行の12%から10%へ

起。

▶13～15日、大統領夫妻はメキシコを公式訪問、教育・文化・スポーツに関する協力協定に署名した。今回の訪問で30年ぶりの首脳会談が実現した。両国は本年外交関係樹立70周年。メキシコには約600名の「ブ」人が在住している。

（3）セルビア訪問（19日）

▶「パ」大統領はコソボを承認した国の元首として初めてセルビアを訪問、タディッチ大統領と「ブ」のコソボ承認後に一時的後退した二国間関係につき協議した。会談後、セルビア側はブルガリアのセルビアEU加盟への支援を期待している旨記者に対して述べた。

変更すると発表した。この措置により約10億レヴァの資金が市場へ流れることとなる。中銀は昨年7月にインフレ対策として準備率を8%から12%に上げていたが、その目的を達したため今回の決定となったと述べている。

◆コンバージェンス・プログラム

▶政府が27日に採択したコンバージェンス・プログラム2008-2011では、ユーロ導入までブルガリアは現在のカレンシーボード制を維持するとしている。その他にも経済の安定性を維持するために必要なものとして、更なる構造改革、ビジネス環境の改善、制度面の強化を挙げている。昨今の金融危機により、輸出と外国投資が減少するとの影響が出てくると予測しており、その対策として財政支援に加え、インフラプロジェクトへの支出を予定している。

◆失業率

▶雇用庁は10月の失業率が5.9%であり、前月より0.1ポイントの上昇となったと発表した。今年に入り失業率が上がるのは初めてのこと。ブルガリア鉄道では3000名の解雇を予定しており、車載用バッテリー企業のモンバット社も“カッピング・プラン”の一環として120名を解

雇した。ブルガリア工業連盟では年末までに合計5万人のブルガリア人が解雇されると予測している。またスペイン（約15万4千人）を筆頭に他国へ出稼ぎに出ているブルガリア人が職を失い帰国する動きにあることもあり、今後失業率が上昇すると予測される。

◆対外債務

▶9月末時点のブルガリアの対外債務は355.79億ユーロ（GDP比104.6%）であると中央銀行は発表した。このうち市中銀行の債務が最も多く90億ユーロ（GDP比26.5%）であり、32.4億ユーロの増加となった。ブルガリアでは長期債務が222.5億ユーロ（全体の62.6%）を占め、短期債務が133.2億ユーロ（37.4%）となっている。

2. その他

◆太陽光発電プラント

▶インターソル社はブルガリアで最初の太陽光発電所を建設すると発表した。規模は1250MWh/年でソフィア近郊のパウノヴォに建設される予定で、バルカン最大の規模となる。投資額は400万ユーロであり、来年中の完成を予定している。

◆ペーレネ原子力発電所

▶電力公社は度重なる資金調達の遅れにより、プロジェクト全体への影響を危惧している。すでにプロジェクトは何度も計画全体を後ろ倒ししており、戦略投資家の選定すら定まっておらず、昨今の金融危機の影響もあり、有効な手を打てずにいる。

我が国との関係

◆草の根無償資金協力プロジェクト署名式

ヴィディン市オテツ・パイシィ小学校 及びソフィア市第18総合学校 衛生施設改修（5日）

▶日本政府はヴィディン市オテツ・パイシィ小学校およびソフィア市第18総合学校両校の衛生施設改修に係る草の根無償資金協力プロジェクトに各々40,054ユーロ及び40,250ユーロを供与することを決定、5日、大使公邸にて署名式が行われた。

▶両校とも設立から100年以上の長い歴史を持つ伝統校であるが、トイレなどの衛生施設が老朽化、損傷が激しかった。本件改修で、より安全で

清潔な教育環境が整備されることが期待される。

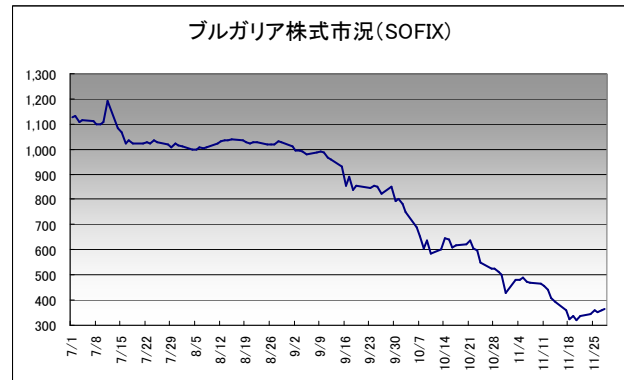
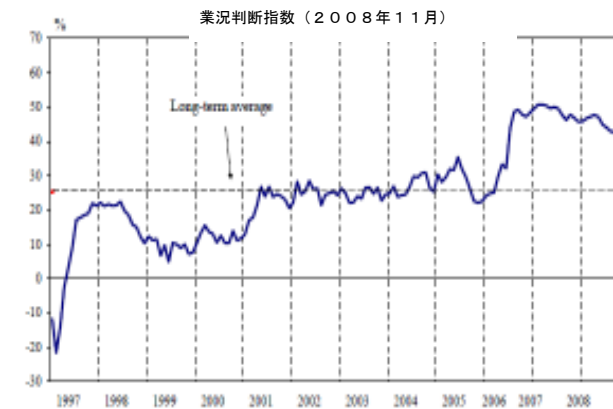
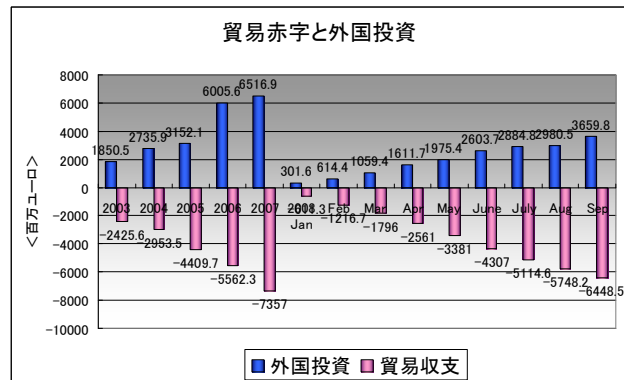
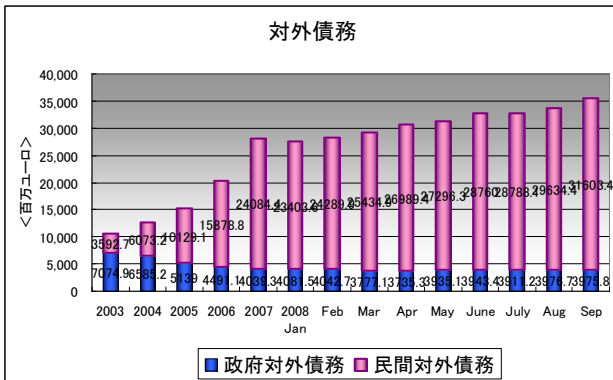
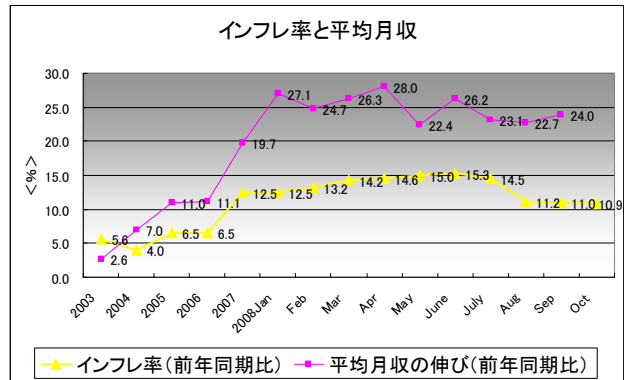
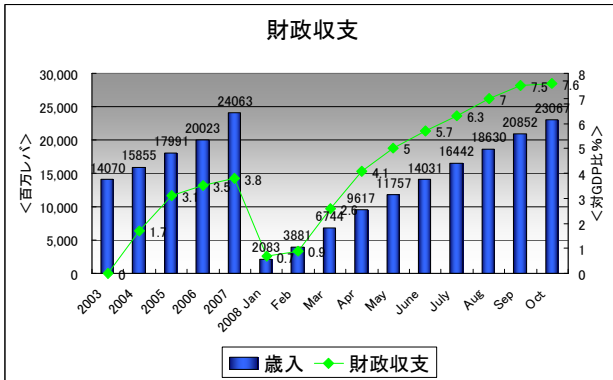
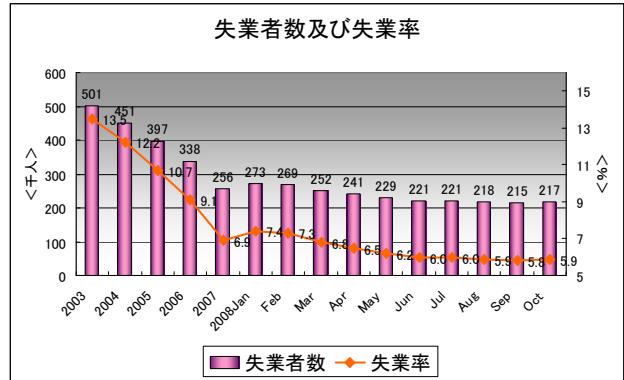
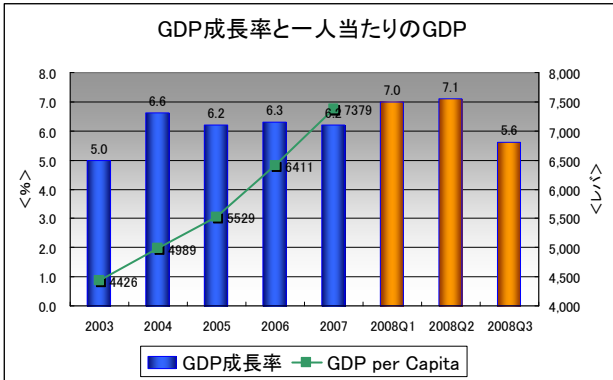
▶なお、ソフィア市第18総合学校では日本語教育が盛んで、日本語弁論大会、日本文化祭、日本語能力試験の実施会場としても使用されている。同校には、これまでJICA派遣のJOCV隊員（日本語教師）が活動してきた他、我が国の支援で（草の根文化無償）日本語・日本文化学習センターが設置されている。今回の支援はこれらの支援と連携し相乗効果をもたらすことが期待される。

ブルガリア内政・外交の動き（2008年11月）

在ブルガリア大使館

1（土）	☆カルフィン外相：ベトナム訪問。パルヴァノフ大統領のベトナム訪問（2009年予定）、ベトナム国家主席のブルガリア訪問（2010年：国交樹立60周年）につき協議。（～4日）
2（日）	
3（月）	
4（火）	
5（水）	
6（木）	☆パルヴァノフ大統領：ウズベキスタンを公式訪問。
7（金）	
8（土）	
9（日）	
10（月）	☆カルフィン外相：EU総務対外理事会参加（於：ブリュッセル） ☆パルヴァノフ大統領：アルゼンチンを公式訪問。（～12日）
11（火）	
12（水）	
13（木）	☆パルヴァノフ大統領：メキシコを公式訪問（外交関係樹立70周年）（～15日）
14（金）	☆ゲーゼンバウアー・オーストリア首相が「ブ」を訪問。スタニシェフ首相の招待。両者は更なる両国間関係の進展の可能性につき協議。
15（土）	
16（日）	
17（月）	
18（火）	☆カルフィン外相：シリアを公式訪問。
19（水）	☆パルヴァノフ大統領：セルビア訪問。
20（木）	☆パルヴァノフ大統領：第5回南東欧地域経済フォーラム参加（於：マケドニア）（～21日） ☆カルフィン外相：ヨルダンを公式訪問
21（金）	
22（土）	
23（日）	
24（月）	☆カルフィン外相：ヴィシエグラード・グループ外相会合（V4諸国+バルト三国、「ブ」、ルーマニア、スロベニア、スウェーデン）参加（於：ワルシャワ）
25（火）	☆欧州委：EU資金（インフラ整備、農業開発に係る加盟前支援）執行機関のうち2機関の再認定を行わないことを決定。 ☆スタニシェフ首相：第二回独経済東欧委員会（ECGE）に出席（於：独）（～26日）
26（水）	
27（木）	
28（金）	
29（土）	
30（日）	

ブルガリア経済指標 (2008年11月)



出所：統計局、中銀、ソフィア証券取引所